

### 社会福祉法人・特養の ガバナンス・コンプライアンスと可視化

**介** 護報酬の減額だけにとどまらず、社会福祉法人の制度自体が見直されている。国民のなかには社会福祉法人が儲かっているという印象が固定化してしまった。

この逆風に対して、現場の取り組みこそが、それを跳ね除ける突破口となる。社会福祉法人が、利用者や地域住民のためにあるということを訴えていくしかない。

現在、企業のガバナンス、コンプライアンスは注視されている。かつては社会福祉法人の方が透明性は高かったが、今は一般企業のほうがコンプライアンスを保持している。

なぜコンプライアンスが必要な経営環境になったのか、それは規制する行政の姿勢が変わったからだ。

以前は事前規制型だったものが、参入障壁が低くなり、事後規制型となった。そこで、ステークホルダー（利害関係者）への責任説明が求められるようになったのだ。

コンプライアンスを組織に浸透させるには、管理者（責任者）による組織への働きかけは双方向であるのが理想だ。つまり、トップや経営者だけの問題ではなく、各スタッフが主体的にコンプライアンス活動を行わなければならない。

現場の声が組織改善に反映されているか、PDCAサイクルがまわっていることを確認できるか、ダブルスタンダードとなりうる事象を前向きに捉えているか、などを実施していけば、組織は生き残る。

社会福祉法人に存在意義があるうちに方向転換していかなければ、いづれなくなるかもしれないと危機感を持たなければならぬ。そうならないために、いかに風通しのよい組織風土を自分たちでつくるかが課題となっている。

## Column 香川会議 参加者コメント

2日目は、JRホテルクレメント高松、サンポート高松、かがわ国際会議場に分かれて、計11会場で分科会と分散会が開催された。どの会場にも多くの参加者が詰めかけ、各発表に熱心に耳を傾ける姿が見られた。ここでは参加者の声を紹介する。

●石川行美さん(管理栄養士)  
特別養護老人ホームこくらの郷(福岡県北九州市)

他施設が、食事を通してどのように利用者に接しているのか、参考になればと思い、初めて参加しました。多職種の方の視点から口腔ケアなどについてお話を聞いて、参考になりました。機会があれば、今度は自分が発表したいと思います。



●藤原一元さん(認知症フロア主任補佐)  
特別養護老人ホーム守礼の里(沖縄県那覇市)

「看取り」の発表を聞き、大変勉強になりました。利用者の家族とのつながりを大切にされている事例が多く感銘を受けました。自分の施設でも、利用者、家族の気持ちを理解した対応ができるよう研修などで役立てていきたいと思っています。

